



明けましておめでとうございます。

県政ながの 幹事長 宮本衡司

平成二十六年の新年を迎え、心より新春のお慶びを申し上げます。昨年を振り返ってみますと、日本経済はアベノミクス効果により期待感が高まっているものの、県下の中小企業・小規模事業者における実体経済に確かな反映を未だ見ることができない状況です。また、それにより県民の生活がどのような変化をきたすのか、消費税増税と相まって予断をゆるしませぬ。少子高齢化による人口減少や経済のグローバル化等、様々な環境の変化に対応すべき転換期を迎え、長期的視点に立った長野県づくりが必要との観点から、県では昨年、平成二十五年度を初年度とし二十九年年度を目標年度とする「しあわせ信州創造プラン（長野県総合五カ年計画）」が策定されました。これにより現在の直面する課題に真摯に向き合い、長野県の将来像を目指して一歩一歩踏み出す、そのための今後五年間の方策が明らかになりました。将来にむけた明るい話題も数多くあり、なかでも、国土緑化運動の中心となる行事である第六十七回全国植樹祭（平成二十八年）の開催地が昨年九月に長野県に決定したことは「森林県長野」を全国に発信できる絶好の機会です。また、平成二十六年度末の北陸新幹線飯山駅開業を目前に、中野市・飯山市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村・栄村・信濃町・飯綱町・新潟県妙高市で構成する「信越九市町村広域観光連携協議」が組織されたことは、将来この地域が市町村境・県境を越え大きく発展することの起爆剤となります。それぞれの自治体が特色ある地域づくりに汗をかき結果として広域全体が繁栄するよう施策展開を官民あげて取り組むことが重要です。地域には様々な課題がありますが、日々努力し、これらの解決に向け邁進して参る所存です。今後とも、県民生活の安全・安心の確保のため、一生懸命取り組んでまいります。皆様方にとって本年が恙ない一年でありますようご祈念申し上げます、年頭のごあいさついたします。

先進地域の取り組み事例に学ぶ ～会派県外視察 鳥取県・島根県～

境港市役所・観光協会

観光振興（誘客増進策）と成果について

平成四年に、JR境港駅から商店街を結ぶ目抜き通りに、同市出身の水木しげる氏が描くマンガに登場する妖怪のオブジェ・モニュメント・絵タイルを歩道に設置し、「水木しげるロード」の整備に取り掛かりました。事業開始時はブロンズ像は六体で、入込客数も年間二一、〇〇〇人でしたが、現在ブロンズ像は一五三体、NHKドラマ「ゲゲゲの女房」が放送された平成二十二年には入込客数は三、二七〇、〇〇〇人を突破しました。境港市の人口は三六、〇〇〇人です。人口の一〇〇倍以上、平均一日一万人以上が訪れたことになりました。トイレが借用出来る親切なお店が数多くあります。



委員報酬四〇％カット、区長報酬一〇％カット、等の徹底した行財政政策（平成十七年度人件費削減効果一億円）により、「日本一安い給料で日本一働く職員」住民サービスをタウンすることなく「自立促進プラン」を着実に実行し、財政事情の改善を図りました。また地域資源を活かし、第二次産業の再生で島に産業を創り、島に人（雇用の場）を増加し、外貨を獲得して島の活性化を図りました。それには「よそ者」が必要と、特に力を入れたのが「インターン」者を呼び込むことと、モノづくりをベースとした産業振興を進めた結果、U・Iターン者が平成二十五年三月末までに二〇四人が移住し、その大半が二十〜四十第という変化が起きてきました。隠岐島前高校（どうぜん）は全校生徒四〇人ほどの高校ですが、全国から意欲ある生徒を募集しています。今年度新入生の約三分の一は東京や大阪など島外の生徒です。様々な補助制度や、地域の手厚い教育支援、公営塾「隠岐学習センター」を設立した結果、四人は二人は国公立大学に合格しています。島全体で子供を育て、「田舎には何もない」「都会のほうが良い」といった偏った価値観を払しょくし、「いつか島に戻り、地元を元



島根県隠岐郡海士町

町政策・移住・Uターン及び子育て支援策について
・島根県立隠岐島前高等学校における「魅力化プロジェクト」について

人口一、三〇〇人の海士町（あまちょう）は「平成の大合併の嵐」が吹く中、覚悟の単独町制を決定しました。
三役給料五〇％〜四〇％カット、職員給料三〇％〜一六％カット、議員報酬四〇％カット、教育



気にした」という愛郷心や、「地域を活性化させる仕事・産業を創りに帰りたい」という地域企業家精神を育成しています。Uターンした若者たちに聞くと「親はじめ島の人々が頑張っている姿を見て育った。島に帰り恩返ししたい」という返事が返ってくるそうです。隠岐島前高校教育の大きな成果であると思います。

宍道湖漁業協同組合

宍道湖と諏訪湖の連携事業の成果と今後の計画について
・シジミ生産の現状について

同組合では昭和四十八年〜六十年まで、諏訪湖産ワカサギ受精卵を購入していましたが、一時中断。平成二十一〜再開（四〇〇〇万粒）しました。また、昭和六十年〜六十三年の間、宍道湖産ヤマトシジミを諏訪湖に移植しています。



出雲市役所大社支所

出雲大社門前の街並み整備事業について

安心して歩けるように歩行空間を左右それぞれ二・五mから三・五mに広げ、車のスピードを下げため車道を七・〇mから五・〇mに狭めました。

